

19. 損傷,中毒およびその他の外因の影響 (T905)

文献

Matsumoto-Miyazaki J, Asano Y, Yonezawa S, et al. Acupuncture increases the excitability of the cortico-spinal system in patients with chronic disorders of consciousness following traumatic brain injury. *The Journal of Alternative and Complementary Medicine* 2016; 22(11): 887-894. PMID: 27662495

1. 目的

鍼治療が頭部外傷後の遷延性意識障害を有する患者の皮質脊髄路に及ぼす直後効果について検討。

2. 研究デザイン

比較試験 (時期により 2 群に分けて)

3. セッティング

木沢記念病院中部療護センター、岐阜、日本

4. 参加者

重症頭部外傷に伴う遷延性意識障害の患者 14 名 (平均 39 歳±17(SD)、男性 12 名・女性 2 名、植物状態 5 名・最小意識状態 9 名)。

5. 介入

Arm 1: 鍼治療セッション (水溝、印堂、合谷、足三里に 10 分間の置鍼)

Arm 2: 無処置セッション (別の日に無処置で仰臥位安静)

どちらのセッションを実施する日にするかはランダムに順序を決定

6. 主な評価項目

刺鍼前 (baseline)、刺鍼後 10 分 (phase 1)、抜鍼後 10 分 (phase 2) の経頭蓋磁気刺激 (TMS) による運動誘発電位 (MEP) の振幅。短母指外転筋から導出。その他の評価項目として、MEP/Mmax、MEP 閾値、最大 M 波振幅、中枢運動神経伝導時間 (CMCT)、比等も測定・算出。

7. 主な結果

鍼治療セッションの phase 1 および phase 2 において、MEP 振幅および MEP/Mmax は有意に増加していた。CMCT は、鍼治療セッションの phase 1 および phase 2 において減少し、その変化は phase 1 において有意であった。

8. 結論・意義

この研究の MEP に関する所見は、脊髄運動ニューロンではなく上位運動ニューロンの興奮性の変化によるものと考えられ、頭部外傷後の遷延性意識障害患者における皮質脊髄路の興奮性が鍼治療によって増加することを示唆している。鍼は今回のような患者の運動機能回復を加速させる有益な治療法になり得るかもしれない。

9. 鍼灸医学的言及

今回用いた経穴の特異性に関しては不明である。

10. 論文中の安全性評価

医学的処置を必要とするような有害事象は発生しなかった。

11. Abstractor のコメント

日本において頭部外傷後の遷延性意識障害患者を対象として鍼の電気生理学的な評価を行う機会はほとんど得られない。その意味で本研究は貴重なデータを提示してくれている。鍼治療と無処置のセッションの日をどれくらい開けたのか不明だが、いずれにせよ観察された変化は短期的と思われる。これが臨床的アウトカムにどのような形でつながるのか、その可能性を論じるにはメカニズムの仮説の過程ひとつひとつの現象の確認をしていく必要がある。本研究はその初期段階として有意義であり、今後さらに臨床に近い指標についても観察した報告を見てみたい。

12. Abstractor and date

山下 仁 2022.3.5 (要約およびコメント執筆にあたって以下の文献を参照した: 松本淳. 第 66 回全日本鍼灸学会学術大会東京大会抄録集 2017:69)